

異常気象を止めるために！

この夏の雨の降り方は、異常極まりない状態です。

先日の千葉県の水害では、わずか半日で350ミリ、3カ月分の雨が降りました。通常、1時間に30ミリを超えると大雨といわれます。

東京でも今日の大雨の予報に対して、昨日のうちにJR青梅線は始発からの運休を決めました。



8月13日の千葉県での豪雨

8月末に北陸で350ミリの大雨が降ったとき、この異常な雨は1000年に一度の珍しい現象だという報道がありました。

皆さんはどう思いますか。1000年に一度なら、あと1000年は大丈夫ということでしょうか？もうしばらくこんなことは起きないから安心していいということでしょうか。

しかし、そのあと数日して、今度は鹿児島県の屋久島でそれをはるかに超える800ミリの雨が降りました。

これは、この1000年間起きたことがないほど異常な現象だということなのではないでしょうか。

こんな豪雨が、毎年毎年、あっちでもこっちでも起きるのが普通になってしまう、それが私たちの未来なのではないでしょうか。

「茹でガエル」という言葉をご存じでしょうか。カエルを突然熱い湯に入れると飛び出して逃げて助かりますが、水に入れた状態からゆっくり熱すると、まだ大丈夫だろうと思っているうちに、逃げ遅れてしまい、助からな

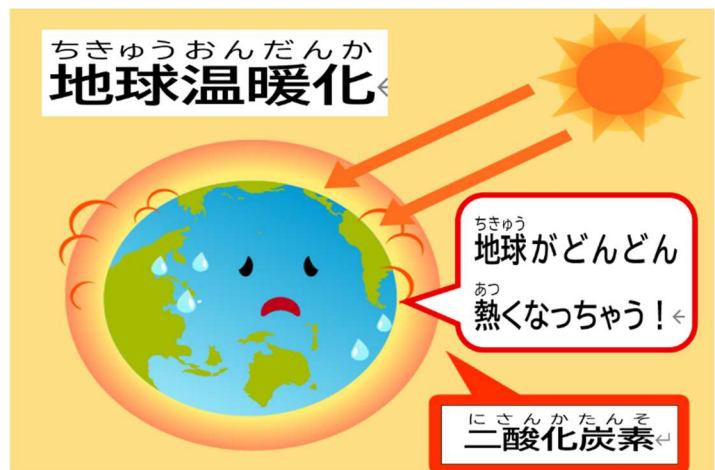


いということです。実際に実験すると、そういうことはないそうですが、私たちこそ正に“ユデガエル”になりかけているような気がしてなりません。それは気温が高くなった、大雨が降ったといっても、「またか」ともう驚かなくなっている、私たちの危機に対する感覚のマヒです。

どうして、こんなことが次から次へと起こってくるのか？それは、地球全体が温かくなっているからだといわれています。

「地球温暖化」という言葉を聞いたことがある人も多いでしょう。

地球全体が温まり、特に海水が温まることで海からのたくさんの水蒸気が雲となって、異常なほどの雨を降らしたり、台風となったりするということです。



では、どうして地球が温まるのかというと、空気の中で二酸化炭素などが増えてきたからです。二酸化炭素は、物を燃やすと出ます。詳しくいうと、発電所、工場、自動車や飛行機などから大量に出ています。つまり、私たちの豊かな暮らしはこの二酸化炭素を出し続けることで支えられています。

この異常な雨や台風、とんでもない猛暑を少しでもストップさせるためには、実は生活者である私たち一人一人の行動がとても大切です。まずは、無駄なことはしていないか、もったいないことはしていないか、身近なところから振り返ってみましょう。小さなことですが、その意識が一人から二人、百人、千人、何億人と広がっていったら、もうそれは小さくはありません。何事も、小さな一歩からです。安心で明るい未来をつくるために、できるところから行動を起こしていきたいと思います。